



みんなで子育て

西濃県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育推進専門職 酒井
電話:0584-73-1111 <内線212>
E-mail: sakai-toshinori@pref.gifu.lg.jp

家庭教育についての
相談はこちらまで。
お待ちしております。



家庭教育応援通信
令和6年度バックナンバー

岐阜県環境エネルギー生活部 県民生活課

家庭で子どもに教えたいことや、育みたい力など、
家庭教育のヒントになる情報をお伝えします!!

子育ての幸せは、どこにある？

1 企業戦士時代からイクメン時代へ

今年も、園や学校で、子育てを学ぶ場や親子のふれあいの場としての家庭教育学級が開催されています。最近、気づくのは、夫婦で参加していらっしゃる方が多くなっているということです。先日、取材をした小学校の講演会で積極的に質問していたのはお父さんでしたし、園で開催された親子運動に楽しそうに参加していたのもお父さんでした。話を聞いてみると、奥さんに「この日は仕事を休んでよ。」と前から言われていたとのことでした。そして、わが子とのふれあいで父親としての幸せを感じたようです。「家族のために仕事を休む」ことが好意的に受け取られるイクメン時代になりました。

私はといえば、保護者として子どもの授業参観や家庭教育学級に参加したという記憶がありません。子どもが朝起きてくる前に仕事に行き、寝た後に帰ってくる毎日、夕飯も仕事場で食べていました。妻も働いていましたので、私の両親が子どもの面倒を見てくれました。

2 子育て世代は忙しい

子育てをしている世代は、仕事にも脂が乗っている時期なので、とにかく忙しいです。しかも、現在、核家族・共働き世帯が多いです。毎日、子どもの食事や入浴、宿題がありますし、次の日の準備もあります。子どもの世話をしながら、自分のこともしなければなりません。毎日の生活に追われ、口から出てくるのは、「早くしなさい。」「ちゃんとしなさい。」「勉強しなさい。」という言葉。でも、これらの言葉は、以前お話を聞かせていただいた講師がおっしゃるには、子どもの自己肯定感を下げる言葉だそうです。

「じゃあ、どうすればいいの〜!」と叫びたくなりますよね。はつきりしているのは、「子育て

の忙しさは永遠には続かない。」ということ。終わりが来るという事です。では、子どもへの手が離れる日を待ち望みながら、ひたすら毎日必死で駆け抜けていくことが幸せなのでしょう。

3 幸せは、「なる」もの？

「幸せになりたい。」とは、誰もが思うことです。では、「どうなれば幸せなのか?」と問われたときに、具体的に答えられない方もいらっしゃると思います。子どもたちには聞くと、「お金持ちになれば幸せ」「インフルエンサーになれば幸せ」「インフルエンサーになれば幸せ」と答える子がいます。では、「お金持ち」「インフルエンサー」にならないければ、幸せにならないのでしょうか。

東日本大震災のとき、「あの頃、家族と一緒にご飯を食べて、お風呂に入って、布団で寝ることがほんとに幸せなことだったとは思わなかった。」と、涙ながらにインタビューに答えていた女の子の姿が今でも忘れられません。失って初めて気づく幸せがあるのです。「幸せはなるものではなく、そこにあるもの」なのでしょう。

また、京都の龍安寺には、口の字を真ん中にして「吾唯知足」の四つ漢字



を表した蹲踞(つくばい)があります。「われ、ただ、足を知る」私はただ、満足することを知っている。」ということで、「今あることにこそ、感謝をしよう」と教えてくれています。

4 子育ての幸せ

子育ては、がんばるものではなく、感謝を見出すものです。産んだだけで100点満点。生まれただけで100点満点。ちよっと手を止めて、ありのままの子どもを見つめる時間を持ちましょう。そこにあるわが子のがんばりや成長に気づくことができるでしょう。それが子育ての幸せ。

できないことがあるから子どもなのです。親子で一緒に課題に向かい、一緒に達成感を感じましょう。それが、子育ての楽しさ。今ある子育ての幸せを感じ、一緒にこれから始まる楽しさを味わう。その繰り返し、親子の絆を強め、親子の自己肯定感を高めます。何といても、親子も笑顔でいられる時間が増えていきます。

皆さんの幸せな時間がずっと続きますように。

西濃県事務所 振興防災課
家庭教育推進専門職 酒井俊臣

講演会・座談会・給食参観

令和7年10月15日(水) 9:40~11:45

対象: 希望保護者

就学後子どもが困らないよう幼児期に家庭でできること
NPOひまわりの花 中野 たみ子 理事長
(公認心理士・言語聴覚士・特別支援教育士等)

「小学校で子どもたちが困っていること」それは、乳幼児期にきちんと脳を育ててこなかったことが原因かもしれません。乳幼児は脳の可塑性が一番高い時期。脳の成長・発達にとってとても大事な時期。生きていく力は生活の中にあります。家庭という子どもが安心できる場所での遊び・会話・睡眠などが大事です。



保育課の子育て講座を利用した「講演会型」

【幼児期に大切なこと】

- ① 基本的な生活習慣の自立
 - ・ 走り回って食事しない子に追いかけて食べはしない。
 - ・ 食事はすわって！
 - ・ 着脱やトイレのトレーニング=ボディイメージの確立
 - ・ 食事は言葉の基礎訓練の場
 - ・ 自分でできることは自分でやらせる。
 - ・ 片付けはママと一緒に「分けて入れる」を幼児期から・・・
- ② 睡眠の大切さ
 - ・ 子どもの睡眠は昼間の活動を刻み込む大事な時間
 - ・ 4~5歳児は9時間必要です！
- ③ 遊びの大切さ
 - ・ 体全体を使う遊び (揺らし遊びは2歳過ぎから)
 - ・ 指先を使う遊び (挟、折り紙、紙破り、ブロックなど)
 - ・ 競争する遊び (じゃんけん、カード取りなど)
- ④ 言葉は家庭の会話が育てる
 - ・ スマホを見せられても豊かな心や言葉は育ちません！
- ⑤ 家庭のルールを決める。
 - ・ 約束は大人も守ること。
 - ・ 聞いてあげられることと聞けないことがあること。
 - ・ 社会的に許されないことには家族全員がNOということ。

クラスごとの「子育てサロン型」

声に出すだけで、助けてもらえる

つながりが続くきっかけに！

クラスごとに椅子をまるくして25分間の座談会。
「最初に、いまハマっていることを付け加えて自己紹介をしてください。」
園職員の指示でスタート。自己紹介から笑顔や笑いが生まれ、和やかに始まりまし。

子育てでちょっと困っていること、でも、相談するようなことではないからそのまま押しとどめてしまうことも、ここでは、共感をもって受け取ってくれます。

「園でがんばっているからゆっくりさせたいと思うけど、夕食を食べるのに1時間以上かかるのよ。」
「園では30分で食べるのにね。」
「時間を決めて、一度片づけているよ。」
その後の対応は、それぞれの家庭で違います。
「後で食べるのなら、言ってね。」
「夕食は終わったから、明日までがまんして。」
正解というものはありません。親さんとお子さんの関係や各家庭の日常の状況によって違います。良いと思う方法を試してみても、様子をみればよいのです。声に出すだけで、同じ年齢の子どもをもつお母さんは助けてくれます。

おやつや量の合わせて、夕食の作る量を増やしたり、減らしたりして工夫するお母さんもいました。
「これからもお迎えなどで顔を合わせたら、お話しくださいね。」
園長先生の言葉に、この座談会を開催する目的が示されていました。



座談会の後は、子どもたちの給食の様子を見学しました。家での食事の様子との違いを知るのも大切です。



1歳児は、顔を見ると帰りたいのかもしないで、保護者は窓からそっと見学します。



養老町立上多度小学校家庭教育学級

フリー参観日

令和7年10月25日(土)

8:35~ 9:20 (1・2・5年生親子)

9:30~10:15 (3・4・6年生親子)



親子一緒に学び

上多度小学校では、学年を2グループに分けて、1・2時間目は、授業参観と家庭教育学級を交互に行っています。家庭教育学級では、外部講師に来ていただき、親子一緒に学びます。3時間目は、親子奉仕作業で親子で学校をきれいにします。保護者はお昼に下校し、兄弟がいる場合は、午後は中学校の授業参観に出席します。子どもは、「お弁当の日」として、自分でおにぎりを作ってきているので、学校で食べて、1時間授業をして帰ります。

1日に行事を凝縮することで、保護者は参加しやすく、親子で濃密な時間を過ごすことができました。

養老町統一参観日を利用した「学校行事参加型」

養老町では、参観日の日を統一しています。小学校は午前中、中学校は午後にするので、兄弟姉妹が小学校、中学校に分かれていても1日で参観できます。

持続可能な家庭教育学級

学校での外部講師による親子活動は、家庭教育学級の「保護者の学び」「親子のふれあい」と目的が同じです。

家庭教育学級		1時間目 8:35~9:20	2時間目 9:30~10:15
1年生	親子で大人の歯をさがそう	2年生教室	生活科「秋のあそびをたのしもう」 1年生教室
2年生	親子で大人の歯をさがそう	2年生教室	算数「かけ算」 2年生教室
3年生	算数「小数」	3年生教室	親子で理科を楽しもう 家庭科教室
4年生	理科「とじこめた空気と水」	4年生教室	道徳「ブランコ乗りとピエロ」 5年生教室
5年生	親子で情報モラル	5年生教室	親子で情報モラル 6年生教室
6年生	社会「修学旅行の思い出」	6年生教室	生活単元学習「なかよし交流会ふりかえり」(2年) わかば教室
わかば	親子で大人の歯をさがそう(2年)	2年生教室	親子で情報モラル(6年) 6年生教室
	土曜日の学習「なかよし交流会ふりかえり」(6年)	わかば教室	



お弁当の日

養老町では、食育の一環として、年3回のお弁当の日を設けています。

こんなこともやってます！

読み聞かせ

PTA読書サークルの皆さんが、年間7回子どもたちに読み聞かせをしています。



普段なかなかできない校舎の周りの草刈りも親子で行いました。

大人の歯は大切

染め出しで磨けていないところを親子で確認して、上手に磨けるようにしました。



情報すごろく

すごろくを通してモラルを学びます。



ネットの特徴を知り、日常のモラルを大事にすることを教えてもらいました。

スリットアニメーション

長さを調整して貼り付けるのは一人では無理です。親子力合わせて作ります。

スリットが回ると女の子が走ります。



岐阜県より「話そう！語ろう！わが家の約束」運動を広げるリーフレットが岐阜県の全家庭に配布されます！

多くの園や学校には、夏休みや冬休みなど長期休業を利用し、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動に取り組んでいただいています。このリーフレットを配布する機会に各園や学校の状況に合わせ、「話そう！語ろう！わが家の約束」運動に取り組んでみてはどうでしょうか？

12月に各中学校へお届けします。

約束運動のよさ

- 家庭の豊かなコミュニケーションは、わが子の自己肯定感(安心感・所属感)を高めます。
- 援助希求(SOS)が出しやすい関係を培います。
 - ・ 子どもが声を出しやすい。
 - ・ 保護者が気づきやすい。
- わが子の成長を保護者自身の成長と重ね合わせることで、「子育ての肯定感」を高めることができます。
- **非認知能力**(数値では測ることができない力)を育むことができます。
 - ・ 「自制心(我慢する力)や「グリット(やり抜く力):Guts(度胸)Resilience(復元力)Intiative(自発性)Tenacity)執念)」は、大切な非認知能力だと言われています。

若い人たちに伝えたいことは？

僕なんかと比較にならないぐらい、才能にあふれた人がいっぱいいる。

でも、その才能を生かすも殺すも自分自身。

自分の能力を生かす能力は、また別にあるということを知っておいてほしい。

イチローさん米国野球殿堂入りでのインタビュー

イチローさんも非認知能力の大切さを伝えています。

① めあての共有
親子でいっしょに考えましょう！

② 取組の見える化
振り返りをしましょう！できないときでも、温かく見守りましょう！

③ 言葉で伝える
親子で気持ちを伝え合う時間を楽しみましょう！

実践カード、案内文あります！

ワード文書をダウンロードして修正可能。

西濃県事務所 検索

「家庭教育」のページ

子ども夢ぱーく

2025

11/8 土

10:30-15:00

by西濃

会場：岐阜協立大学

大垣市北方町5-50

駐車場は裏面地図でご確認ください。

西濃地区PTAによる大規模家庭教育学級！

岐阜協立大学祭とコラボでWin&Win！

岐阜県PTA
西濃PTA

子どもと一緒に参加できます。
遊べます。学べます。

① プレーパーク

11:00~15:00

ふだんできないことがあもいっぺりでできる！
子どもたちが既存の遊具での遊びにとらわれない、子どもたちが遊びを作り出す空間です。



子どもたちの「やってみたい！」をフレイワーカーが安全に配慮しながら行います。

③ わたしのお産展inぎふ (写真展)

10:30~15:00

みんな生まれてきた、ひとりひとりが、それぞれのはじまりの物語を持っている。私の命をゆったり感じる時間。



プレーパーク、写真展、マルシェとも、経験のあるスタッフに委託することで、スムーズな運営ができました。

やりたいことを実現しながら、保護者の負担は最小限。

学び場

講演会

② 渡部達也さん講演会

13:00~14:30

講演内容：「心が折れるより、骨が折れるほうがまだ！」

講師：渡部達也

NPO法人やめ・まち・ねっと設立



地域の子どもや若者の居場所づくりに尽力。色んな活動を通じて地域社会の発展に貢献

④ 市場（マルシェ）

10:30~15:00

大人も子どもも楽しめるマルシェです。

思いのこもった手作り作品に触れ、お店の方とコミュニケーションを取り、楽しんでいただけること間違いなし！



(写真は昨年のPTAフォーラム可茂地区大会のマルシェの様子)

市場

マルシェ

快晴の秋空のもと、岐阜協立大学学園祭に合わせて、西濃地区PTA主催（岐阜県PTA共催）の「子ども夢ぱーく」が開催されました。

「大人も子どもと一緒に学ぼう！地域の学びの魅力を再発見しよう！」をスローガンに、4つの場「遊び場（プレーパーク）」「市場（マルシェ）」「気づく場（わたしのお産展）」「学び場（講演会）」を実施しました。従来の研究大会としてのPTA実践事例発表は、ネット開催とし、「子どもたちに遊び場を提供したい」「一緒に遊びたい」「子どもと一緒に学びたい。」という子育て世代の声を実現しました。

学園祭とコラボすることで、駐車場係、会場運営係、お弁当係は必要なくなりました。また、プレーパークの受付や会場整理の役割は30分交代としました。役割を受け持った西濃PTAの保護者は、子ども連れで来て、分担の仕事が終われば、子ども夢ぱーくで遊ぶのも、大学生の出店したお店で食べるのも自由です。たくさんの親子連れが来場し、思い思いの場所で親子の時間を楽しみました。

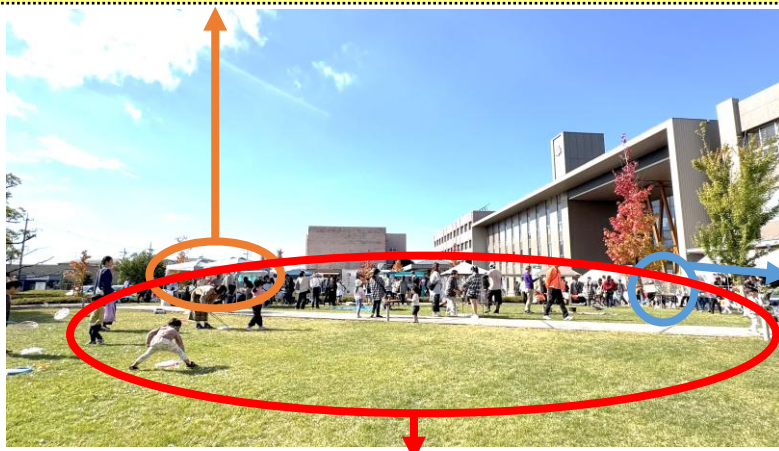
多くの親子が来場することで、地域の大学のすばらしさを理解してもらう機会ともなりました。

気づく場

わたしのお産展 (写真展)

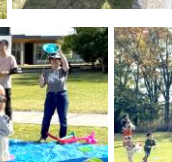


布力バン、ガーゼハンカチ、ウッドプレート、キャンドルの手作り作品。子どもと一緒に体験することができます。お母さん方は、ハンドトリートメントでリラックスタイム。



産まれたばかりの赤ちゃん、ほっとしたお母さん、お兄ちゃん、お姉ちゃんの写真を見ながら、親子で命が誕生することのすばらしさを振り返ります。

受付でバルーンの剣をもらって大喜び。会場には、剣をもった子どもがあふれました。



遊び場

プレーパーク

約520名の親子が、青空の下、けん玉、シャボン玉、皿まわし、トイピアノなどを使って、遊びを満喫しました。透明シートを使ったお絵描きコーナーでは、カラフルなキャラクターや生き物がいっぱい描かれました。